

第3章 研究を終えて

私たちは、『こころざし』をもった子供が育つ学校」を研究主題とし、1年間研究に取り組んできた。『こころざし』をもった子供」を育てるには、「開かれた学校」の下、「頼もしい先生」が一人一人の子供たちに「確かな学力」と「豊かな人間性」を育成することが重要であるととらえた。そして、その考えを基に、各自が研究テーマを設定し、研究を進めてきた。

その結果、『こころざし』をもった子供が育つ学校」をつくる視点として、「縦と横の連携を核とした教育活動」と「教職員の資質能力の向上」の2点が極めて重要であるととらえた。

縦と横の連携を核とした教育活動

生涯にわたり学び続ける人の育成が求められている現在、学校は、「生涯にわたる学び」という縦の統合と「学校・家庭・地域が教育の場」という横の統合を考慮して教育活動を行うことが大切である。

- ・現状の活動や組織を見直すことにより、家庭・地域との連携を深め、保護者や地域住民の期待に応えた教育活動が展開できる。
- ・学習面を中心とした小・中学校の連携を進めることにより、9年間を通して、より効果的に「確かな学力」の育成を図ることができる。
- ・学級活動や道徳、体験活動の有機的な関連を図ることにより、これまで以上に主体的な「進路選択能力」を育成することができる。

教職員の資質能力の向上

学校教育の成否は、児童生徒の教育に直接携わる教職員の資質能力に委ねられるところが大きい。現在の学校教育には、『確かな学力』の育成」「保護者・地域住民の要望に応じた学校経営」「一人一人に応じた指導体制の工夫」「キャリア教育」など、多方面での対応が求められている。そのため、教職員は、常に自らの資質能力の向上に努めることが大切である。

- ・少人数指導をはじめとする「個に応じた指導」の中で、絶対評価の機能を生かした授業づくりをすることにより、個人差に対応する授業を一層充実できる。
- ・教職員が、連携・協働して取り組める研修体制の整備と、課題意識をもって参加できる研修内容への改善により、教職員の授業力を高めることができる。

これからの学校は、『こころざし』をもった子供」の育成を目指して、一人一人の子供の学びを充実させることが大切である。

そのため、学校は、家庭・地域と連携して教育活動を展開することにより、学びの場を広げ、質を高めていく必要がある。また、教職員は、絶えず子供の実態を把握し、自らの指導を振り返り、改善を図らなくてはならない。同時に、学校経営の一翼を担う一員としての自覚をもち、ライフステージに応じた課題を認識し、学校経営に参画することが重要である。